

二〇一一年度 札幌学院大学法学部講演会

法学部教授 清水 敏行



講演する小此木政夫先生

去る十一月三十日小此木政夫先生(おこぎ 政夫)慶應大学名誉教授、九州大学特任教授をお迎えして「朝鮮半島情勢はとうなるか―分断体制の現段階―」というテーマで法学部講演会を実施した。当日は約二百名の学生および市民が会場を埋め尽くした。朝鮮半島は南北分断体制の下にある。これは戦争も統一もできない状況を意味する。冷戦期には南北が経済、軍事、政治的安定をめぐって体制間競争を繰り返してきた。朝鮮半島は戦争には至らない武力挑発を繰り返した。冷戦の終焉後、北朝鮮は危機に直面した。北朝鮮は市場経済の道を歩むことなく、体制維持の手段として核開発に取り組んだ。核開発についても、体制維持の手段である核開発を放棄することはなかった。

中国の大国としての台頭は東アジア秩序に大きな変化をもたらした。中朝関係は、今後、朝鮮半島をめぐる国際情勢はどう動くか。米韓は戦略的忍耐の対応をしながら、北朝鮮が核開発を放棄するかシナリオを送る。北朝鮮が核開発を断れない限り交渉しない。中国は北朝鮮との関係を強める可能性がある。このような危険なシナリオではなく、平和なシナリオもある。いかにして武力挑発や核開発をする北朝鮮を市場経済に移行させるか。そこを考えたものが中国の東北開発とロシアのバイパスラインである。バイパスラインを北朝鮮経由で韓国にまで敷設する構想には、北朝鮮のロシアに対する借金棒引きが関連しているようである。北朝鮮がバイパスラインを止めるのは、中国よりもロシアが相手では難しいだろう。バイパスラインが信頼を醸成することになる。二〇一二年には一つのシナリオがあると言える。

札幌学院大学後援会 秋季役員会を開催

去る十一月十二日、後援会の第六十七回理事会が開催されました。最初に、事務局から今年度事業の中間報告があり、引き続き、青森・仙台・本学で開催された保護者懇談会について、詳細な説明がありました。議案第一号「平成二十四年度予算編成方針について」及び議案第二号「後援会の事業と予算について」は、提議された通り承認されました。

また、飛田学生課長から、学生の諸活動について紹介があり、弓道部女子責任者の楠本絵梨さんと吹奏楽団団長の高木明さんらからは、今年度の活動結果と次年度に向けての抱負が述べられ、大きな拍手に包まれました。最後に保護者理事の皆様から心のこもったスピーチをいただき、和やかなうちに終了しました。

学芸員課程 博物館学 展覧会

学芸員課程 博物館学 展覧会

今回の企画展のテーマが「ORIGAMI展」となりました。折り紙作家の理哲史氏(トシノリ)の作品と、宇宙開発技術に例用されている、折る技術について展示したり、紙を折ったり、切ったり、捻って作り出された作品に、私たちは圧倒され、折り紙の歴史や利用方法を知るとともに、実際に作成してみようというところが今回の展示の出発点です。

ORIGAMI展では、「学ぶ」「知る」「見る」と三つの項目を立てました。「学ぶ」では紙と折り紙の歴史を、パネルと伝統的な折り紙を使い展示しました。「知る」では生活の中で使用されている折り紙について報告がありました。また、飛田学生課長から、学生の諸活動について紹介があり、弓道部女子責任者の楠本絵梨さんと吹奏楽団団長の高木明さんらからは、今年度の活動結果と次年度に向けての抱負が述べられ、大きな拍手に包まれました。最後に保護者理事の皆様から心のこもったスピーチをいただき、和やかなうちに終了しました。

「学ぶ」「知る」「見る」と三つの項目を立てました。「学ぶ」では紙と折り紙の歴史を、パネルと伝統的な折り紙を使い展示しました。「知る」では生活の中で使用されている折り紙について報告がありました。また、飛田学生課長から、学生の諸活動について紹介があり、弓道部女子責任者の楠本絵梨さんと吹奏楽団団長の高木明さんらからは、今年度の活動結果と次年度に向けての抱負が述べられ、大きな拍手に包まれました。最後に保護者理事の皆様から心のこもったスピーチをいただき、和やかなうちに終了しました。

経営学部・商学部学生自治会合同主催 SGU 歌うま王座決定戦!!

学生自治会企画行事 開催

経営学部学生自治会と商学部学生自治会の合同主催として、カラオケ大会の「SGU歌うま王座決定戦!!」を十一月十九日(土)に実施しました。

企画内容は経営学部・商学部の中でカラオケに自信のある会員が中心となり、会場となったSGUホールで熟唱して頂き、それをものに順位を付け、景品を贈呈するというもので、当日は参加者と来場者が盛り上がり、歌うま王座決定戦!!の結果、一位は絢香の「みんな空の下」を歌われた向平さん(経営学科3年)が受賞されました。

また、この企画は本自治会としては初の音楽系イベントという事もあり、プロの音響会社にもお願いをし、参加者の皆様にステージで歌を歌うという経験の場を提供する事が出来ました。今後は参加者と来場者が盛り上がり、歌うま王座決定戦!!の結果、一位は絢香の「みんな空の下」を歌われた向平さん(経営学科3年)が受賞されました。

卒業祝賀会

日時 学位記授与式当日
午後四時から午後五時三十分
式場 京王プラザホテル札幌二階 エネンスホール
(札幌市中央区北五条西七丁目二の二)
会費 卒業生 一〇〇〇円
一般 二、〇〇〇円

学位記授与式

平成二十四年十一月十六日(金) 午後一時開式
式場 ニトリ文化ホール(北海道厚岸町)
(札幌市中央区北一条西一丁目)
◇大学院修了生・学部卒業生および保護者の皆さんは午後〇時三十分までに会場ください。

法学部学生自治会主催 法学部祭

法学部祭

法学部学生自治会 執行委員 山谷 健斗 (法律学科3年)

二〇一二年十一月十七日(土)に開催された、法学部祭(Winter SGU Fest)について報告させていただきます。

二〇一二年度はバスケットボールとミニバレー、合計十二チームを募集し、各意思疎通上手い、かす、意図が伝わりやすい、事もありました。しかし、最後には皆一致団結し、無事に開催することができました。短い期間ではありましたが、述べ一八一名の方々が参加し、日本の誇る折り紙文化の楽しさを素直に楽しんでいる、素直な姿が印象的でした。このように、学生一同、同じく思っています。

去る十一月十二日(土)、本学の第二キャンパスにて体育大会を行いました。毎年、私たち法学部学生自治会(以下本会)は人文学部生を対象に人文部祭を行っており、今年度は本会が主催する「一声BOX」という投書箱に寄せられた意見をもとに、体育大会を開催する運びとなりました。種目はバレーボールです。

当日は朝から多くの学生に参加していただき、

学生活動のとりくみ報告 経営学部

十一月三日、本学を会場として第七回「全国若手ものづくりシンポジウム」が全一級の部で、会計・ファイナンス学科の学生が団体戦として優勝しました。二位は辻翔太君、三位は長坂玄太君、熊谷将君、山下俊平君の二年生トリオ。二位は辻翔太君、工藤恵里那さん、木下涼介君の一年生トリオ、三位は齊藤尚哉君、中川謙治君、佐々木直人君、嶋田博敏君の二年生混合チームでした。

個人戦では辻君が一位の快挙を達成し、山下君も四位と健闘しました。「全国大学対抗簿記大会」のランキングでも、個人戦二級で辻君が九位、個人戦一級で渡邊翔美さんが百満点の一位に輝きました。これらの学生は、公認会計士資格取得や簿記検定試験一級合格を目指し、猛く勉強中です。健闘を期待しています。

Seminar

わたしたちの ●ゼミ紹介します!
@SGU vol.12

英語英米文学科「専門ゼミナールB」

水島 梨紗 人文学部 講師

当専門ゼミナールでは、外国語(主に英語)によるコミュニケーション能力を高める際、必要知識について、ことは自体だけではなく、社会・文化的な側面から総合的に学び、考えることを目的としています。



全員で集合



みんなでディスカッションし合います



明るい笑顔が絶えません

近年、外国語教育の分野では、「実践的なコミュニケーション能力」の養成がますます求められるようになってきました。中学校や高校で学ぶ外国語は、その大部分が入学試験をターゲットとしたものであり、語彙や文法といった側面が重視されがちですが、それらばかりではないという問題意識の表れでしょう。

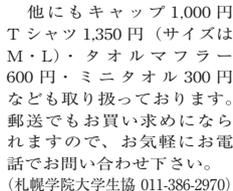
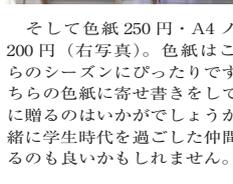
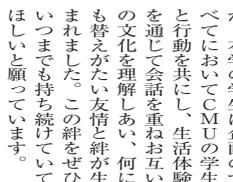
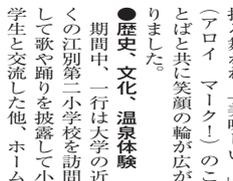
外国語を使ってコミュニケーションを行う際、文法や発音以上に気をつけなければならぬのが、「そのことばをどのように使うか」という点です。同じ内容を行われたタイフッドフェアアをもち、タイ独自のスパイスを持ち込み、生鮮食品などはフェアア当日にスーパーで買い、午前中いっぱいかけて心を込めてタイ料理を作りました。できあがった五百食ほどのグリーンカレーやエロカレーは大学生協前にブースを設けて本学学生に無料で振る舞われ、「美味しー!」とほっと共に笑顔の輪が広がりました。

「日本人の物の言い方は婉曲的なのに対し、欧米諸国の人々は直接的である」といふ文化の固定観念(ステレオタイプ)も、時に「コミュニケーションの妨げになります。当ゼミナールでは、テキストの講義を通じて、様々な文化圏の学習者が外国語を用いる際の特徴について考えています。外国語を話すときには、自身の母語や文化がどのように影響するのかが、どのような部分に注意すればよ適切なやりとりができるのか、といった点が議論の中心となります。



このように、ゼミナールの内容はやや専門的ですが、ゼミ内の雰囲気は非常に和やかで、活気があります。ここでの相互的な学習を通じて、各自が実社会で成長していくための礎を築くことを期待しています。

「サポートデスク」学生スタッフプレゼンテーションスキル賞受賞!
情報機器の活用について発表を行いました。サポートデスクとは学生スタッフからなる組織で、日ごろは学生や教職員からのPCリ活用に関する様々な相談やトラブルに対応しております。私は「学生によるICT利活用支援の試み―業務改善に関する一考察―」をテーマに、「サポートデスク設置時時から、現在の業務内容や協働体制に至るまでの経緯を業務改善としてまとめ、発表しました。この分科会にはプレゼンテーション技能が特に優れている発表者が「プレゼンテーションスキル賞」が用意されており、今年度は私が受賞することができました。今回得ることができたこのサポートデスクの活動に活かしていければと思います。サポートデスクスタッフ 大道寺沙理



二〇〇九年に始まったタイ・チェンマイ大学(CMU)との異文化交流プログラムの授業に参加してタイの文化を紹介するスピーチコンテストを行いました。日本とタイの文化比較を題材にした意見交換を通じて本学学生は大いに学習意欲を刺激されました。この他に今年もサポーターが企画の手伝いを行いました。

SGUの学生と共に英語の授業に参加してタイの文化を紹介するスピーチコンテストを行いました。日本とタイの文化比較を題材にした意見交換を通じて本学学生は大いに学習意欲を刺激されました。この他に今年もサポーターが企画の手伝いを行いました。

タイ・チェンマイ大学との異文化交流プログラムが開催されました

タイで日本の家庭を体験しました。また、プログラムの中で用意した、旭山動物園見学、お好み焼き体験、白老アイヌ博物館見学、登別温泉での温泉体験等様々な体験企画を通じて、冬の北海道と日本の文化に触れる事ができました。

短期間ではありますが、本学の学生は企画のすべてにおいてCMUの学生と行動を共にし、生活体験を通じて会話を重ねお互いの文化を理解しあい、何にも替えがたい友情と絆が生まれました。この絆をぜひいつまでも持ち続けていてほしいと願っています。

大学生協では新たなSGUグッズを文房具から衣料品まで多岐にわたり販売しています。まずはエコバッグ380円(左写真)。青・赤・緑・桃の4色から選べます。普段は折りたたんで持ち運び可能です。

そして色紙250円・A4ノート200円(右写真)。色紙はこれからのシーズンにぴったりです。こちらの色紙に寄せ書きをして恩師に贈るのはいかがでしょうか?一緒に学生時代を過ごした仲間にも贈るのも良いかもしれません。

他にもキャップ1,000円 Tシャツ1,350円(サイズはM・L)・タオルマフラー600円・ミニタオル300円なども取り扱っております。郵送でもお買い求めに承れますので、お気軽にお電話でお問い合わせ下さい。(札幌学院大学生協 011-386-2970)

SGUバッジ ¥800
SGUバッジ ¥800

大学生協

新グッズ紹介します

BOOK REVIEW 教員著書紹介

「韓国政治と市民社会 金大中・盧武鉉の10年」

清水 敏行 (法学部 教授) 著
北海道大学出版会
2011年3月31日発行 価格: 6300円

「戦略的協働の本質 —NPO、政府、企業の価値創造」

小島 廣光 (経営学部 教授) 著
平本 健太 (北海道大学 教授) 編著
有斐閣
2011年5月発行 価格: 4725円

「戦略的協働の本質」

小島 廣光 著
有斐閣

「特別支援教育コーディネーター 必携ハンドブック」

二通 諭 (人文学部 准教授) 他編著
クリエイティブかもがわ
2011年5月発行 価格: 2940円

本書では、1987年の民主化以降、とくに金大中政権・盧武鉉政権(1998~2008年)の10年間における政府・政党と市民社会の相互作用に焦点をあてて、韓国政治の動態を明らかにしました。この時期に市民社会と政治の距離はとて近くなり、市民団体の役員が政府の高官に、また政府の委員会に入ることが急増しました。本書はそれを数量化して示しました。また2000年の落選運動は日本でも注目されましたが、当時の金大中大統領による多数派形成の政治との関連性が見られました。金大中大統領は全羅道政権としての地域主義的な制約を、市民社会の政治化によって克服しようとした。韓国では市民社会の政治化は政党の支持再編と絡んでおり、市民社会と地域主義は表と裏の関係にあるとも言えます。この点は、金大中政権を引き継いだ盧武鉉政権にも言えます。本書は、以上の点を実証的に、また概念的に考察しようとしたものです。

2007年4月1日をもって、「特殊教育」が「特別支援教育」へと移行しましたが、このことにともない、各学校では発達障害等の子どものための教育的ニーズに応える際の調整役として、校長によって校内コーディネーターが指名されることになりました。学校の教員なら誰もがコーディネーターになる可能性がでてきたのですが、何をどうすべきか皆目見当がつかないというのであれば、教育的支援に遅れを生じさせます。本書は、コーディネーターの任につく教員にとっては、有力なガイドブックになります。コーディネーターの役割や実際の動き方について詳述されていますし、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成等についての記述は、はじめの一歩を踏み出す教員には心強い情報と言えるでしょう。また、特別支援教育をめぐる制度の変遷や障害の説明、各種シートのフォーマットなどを付録のCD-ROMに収めているあたりが本書のサービス精神を物語っています。

